

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。
また、お忙しいところご臨席いただきました、ご来賓の皆様にも厚く御礼申し上げます。

皆さんが入学されました、我が藍野大学短期大学部には、看護師養成コースとして、准看護師を対象とする第一看護学科、高校卒業者を対象とする第二看護学科、保健師養成コースとして、専攻科を設けております。それぞれの道で是非勉学に励んでいただきたいと思っております。

皆さんご存知のように、日本は急速に高齢社会が進行しており、医療・福祉の現場において、看護師・保健師が果たすべき役割はますます大きくなっています。そのためには皆さんには必ず国家試験に合格し、看護師・保健師になるという強い信念を持ってほしいと思っております。

この目標に向けて、その強い信念はこれからの人生に必要なものです。さらに、卒業後、看護師や保健師という医療人として働くためにはまた別の力を養うことが大切になってきます。

それは、「柔らかな心」です。心が柔軟であれば、自分の考えを異なる意見や新しい変化を受け止めることができます。特に皆さんが関わることになる患者さんは、一人一人病気も違えば性格や考えも全く違います。病状も刻一刻と変化していきます。そんな患者さんに適切なケアを提供するためには、「柔らかな心」を養うことが非常に大切なのです。

一方、固い心や頑なな心では、自分の考えとは違う意見や変化を受け止められません。結果として、「思い込み」という状況に陥らざるを得なくなります。医療や福祉の現場で患者さんや高齢者を一人一人違う個性のある存在と考えることができず、患者さんはこういうものだ、高齢者はこういうものだといったレッテルを貼り、画一的な見方しかできなくなります。

例えば、ある老人介護施設で、「あなたが一番好きなテレビ番組は何ですか」という統計が取られました。何百人という人を対象にアンケートを行ったのですが、第一位は何だったと思っておりますか。介護スタッフのほとんどは時代劇が一番好きだと答えると思っていたわけですが、ところが意外なことに、施設の七割の人が時代劇ではなく、ニュース番組が一番好きだと答えたのです。これは、「お年寄りは大画面のテレビで、大音量で時代劇を流しておけば楽しく過ごせるだろう」という私たちの思い込みです。

是非、皆さんには、「柔らかな心」を養ってもらいたいと思っております。そのためには、医療や看護の知識や情報を頭に詰め込むだけではいけません。ボランティア活動などさまざまな社会的活動も有効です。しかし、何より実習という臨床現場での患者さんとの直接の出会いやふれあいを大切にしていきたいと思っております。

患者さんに何かをしてあげるという姿勢ではなく、患者さんから学ばせていただくという姿勢が大切です。それにより、医療人としての視野が新たに広がり、人間として患者さんとともに成長する可能性も高まります。

看護師や保健師に必ずなるんだという強い気持ちを持ち、家族の心にそっと寄り添うことができる「柔らかな心」を大切に、勉学に励んでいただきたいと願っております。

平成二十八年四月七日
藍野大学短期大学部
学長 佐々木 恵雲